

👂 耳でも聞ける



議会だより

2026 No. 216

令和8年1月28日発行
岩手県紫波町議会



しあ



主な内容

特集 / 議会報告会

町民と議会の意見交換会 2

一般質問

11 議員が町政を問う 8

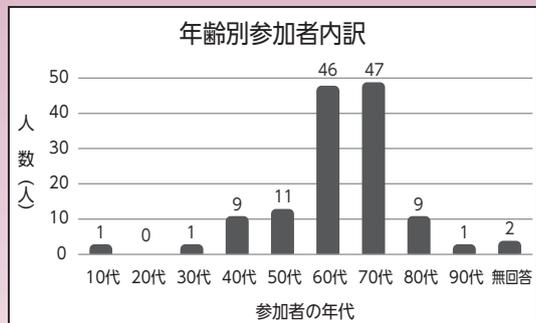
挑戦・飛躍の年へ!! P16 に関連記事

かして!!

会話補助カードを使った新しいカタチで開催しました!

全13会場、参加者127人の皆さまから多数のご意見をいただきました。

開催期間：10/29～11/8



広報広聴常任委員会委員長 鈴木 博

声を大切に
 より多くの声を受け止めるため、今回から意見交換会の趣向を工夫しました。カードを活用し、和やかな雰囲気の中で多くのご意見を聞くことができました。いただいた声は、今後の政策提言に生かしてまいります。
 これからも、町民の皆さまとともに、活発で実りある意見交換会を目指してまいります。

- 毎日がハッピー。子どもの喜ぶ姿を見ることが幸せ。オガールができて良かった。町には色々そろっている。豊かな町が続いていけば良い。
- 空気が良く食べ物が美味しい。
- 文化や歴史が豊かで良い。
- 紫波マルシェに野菜を出荷してる。良いと感じている。
- 近所の人たちの仲が良く暮らしやすい。
- 免許がないと町へ行けない。道路もひどい。
- 農業後継者がいない。土地を荒らしてしまう。子どもがいても継ぐか分からず心配。

テーマ1：紫波町に住んでよかったこと、困ったこと

ご意見の一部をご紹介します

- 人の生活圏に出没するクマ対策。
- 役員のみ手不足。公民館の老朽化。
- ノウルプロジェクトについて、地元と関わりがない。小学校は地域のよりどころだったのに。校舎の利用は地元が関われるようだといひ。
- 中学校クラブ活動の地域展開、指導者がいないのでは。子どもたちの体験、経験が減る。
- 高齢化と新住民、人との関係が希薄になっている。
- 民間住宅に外国人が居住、近隣との交流の機会がない。労働力として大事だがこれでいいのだろうか。

～テーブルごとに模造紙に書き出しながら意見交換しました～



町民と議会の意見交換会・議会報告会

私たちの

声を生

- 少子化対策を期待する。子育てのしやすい町に。
- 東西の農村部に目を向けて。
- 紫波町は歴史ある町。歴史博物館をつくり、歴史と文化を後世につなげて。
- 空き店舗を活用できるように。店が増えれば人が集まり、経済効果になる。
- 空き家が増えている。活用を図って。また、農地の管理をどうしていくのか。町の対策に期待。
- 町にはさまざまな財産がある。もっと広い目で考え、若者が夢をもてる町づくりに取り組んで。



テーマ2：まちづくりに期待すること

ご意見の一部をご紹介します



- 紫波にしかないものを作り、生産者、JA、行政が一体となって取り組んで欲しい。
- 年をとっても働きたい。企業誘致。自分に合った働く場を。
- 障がい者でも集まれる場所があればいいな。音楽や劇をやったり、発表できる場を。誰もが住みやすい町に。
- 人口が減少し高齢化が進み、税金が入ってこない。町の収入が減る。支出を減らさないとやっていけない。何に使うべきか議会は考えて。
- 農地整備を進め、中央部に集中して人が住むような町づくりを。

～同じテーマではひとり2回以上必ず発言ができるというルールで行いました～

意見交換会への感想(アンケートより抜粋)

● 志和 70代男性
有意義な意見交換会でした。サウンドカードで話しやすかった。

● 古館 60代女性
初めての参加でしたがあっという間に終わってしまった。もっとこういう場を設けていただければ町民の声が議会へ生かされるなと思いました。

● 日詰 70代女性
このようなざっくばらんなコミュニケーションができてとても良い企画でした。

● 赤石 70代女性
とてもいい話し合いができて本当に良かったです。話してみればみんな思いは同じなんだと思いました。

● 彦部 30代男性
時間が足りなく深い話まで行けなかった。テーマをもう少し絞ればと。考えたことのない話も聞くことができてよかった。

● 日詰 10代男性
自分の思いを伝えたくて参加しました。緊張しましたが、楽しかったです!!



新しい条例が できました!

定例会
12月第1回会議
12月1日~10日
12月第2回会議
12月25日

条例 審議

条例とは：都道府県や市町村が、住民のために議会の決議を経て制定する自治体独自のルールのことです。その自治体だけに適用されるもので、その地域の実情に合わせて住民生活のルールを定める地方自治の重要な仕組みです。

町長より提案された条例8案件・予算7案件・報告1案件・契約1案件・人事1案件・その他1案件の合計19案件について審議した結果、全て原案のとおり可決・合意をしました。

一般質問は、11議員が、農業政策、クマ・緊急銃猟、財政、自殺対策、公民連携、分娩支援、ICT教育、人口減少、熊谷町政の成果と課題などについて町の見解をたずねました。

「こども誰でも通園制度」

紫波町乳児等通園支援事業の設備および運営に関する基準を定める条例【議案第59号】
令和8年4月1日施行



在宅育児の子育ち応援

「こども誰でも通園制度」は、保護者の就労状況にかかわらず、生後6カ月～3歳未満の未就園児が月に10時間の範囲で何度でも保育所などに通園できる制度です。令和8年度から全国で実施されます。一時保育とは違い、多様な子育て世帯を支援すること、子どもが家庭外での多様な経験をすることを目的にして、全ての子どもも健康やかな育ちを応援します。



問 体制整備は大丈夫か。民間事業者への拡大は。

答 令和8年度については町立の古館保育所での実施を想定している。担当職員を配置して通常保育に影響が出ないような運営を検討している。民間事業者の参入については、8年度の実施状況やニーズなどを勘案しながら各事業者と協議を行っていく。

問 事故補償などの責任は。

答 保護者と園との直接契約であり、公立の古館保育所が責任を持つ。他の事業者参入時は運営事業者の責任となる。

問 町内での対象児人数は。古館保育所の1日あたりの受け入れ可能人数は。

答 推計で80人前後と想定。古館保育所では、0歳児3人、1歳児2人、2歳児1人の受入体制を整えていく。

令和8年度から対象施設となる古館保育所



討論

反対

及川ひとみ 議員

利用児の安全、環境や体制、在園児への影響も考慮が必要。保育士不足の現状で、事業そのものに不安がある。町の裁量で作れる条例なので、基準の上乗せや安全面を強化すべきであり、反対。

反対3 採決 賛成14
村上 及川 細川 吉田 鈴木 佐藤 橋浦 高橋 浅沼 北條 同議員 佐木 同議員 熊谷 細川 藤原 根水

武田平八議員は、議長のため裁決には加わっていません。





旧郡役所庁舎の活用保存が始まります

紫波町旧紫波郡役所文化交流施設条例 【議案57号】

令和8年4月1日施行

問 文化財としての価値の継承はどのようにしていくのか。

答 活用し収入を得ることで、維持管理費の持ち出しを抑えながら、今後の大規模修繕にも対応させ、長く保存し、価値の継承に努める。

旧郡役所庁舎は県指定有形文化財です。現在の大規模な改修工事完了後は、町と指定管理者により、文化財の保護を進めながら交流スペースとしての活用が始まります。その活用と保存のためのルールを定めました。

カフェやコワーキングスペース※で交流の場を創造しながら保存。



改修中の旧郡役所庁舎



※コワーキングスペースとはさまざまな人が同じ空間を共有し、仕事や作業、交流を行うスペースのこと。

採決：全員賛成

建物内のレイアウトは議会だより215号8ページを参照ください。



犯罪被害者の心身の安心のために

紫波町犯罪被害者等支援条例 【議案第58号】

令和8年4月1日施行

犯罪被害者等支援条例とは、犯罪被害者やその家族が受けた心身の被害回復や生活再建を支援するものです。国が定めた犯罪被害者等基本法に基づき、各地方公共団体が、独自に制定する条例で、精神的・経済的支援、専門職配置、民間団体との連携などを定めます。これにより全国的な支援が広がっており、県では令和6年4月に制定されています。町での窓口は消防防災課となります。犯罪被害者やその家族に町ができることを重層的に支援するとしています。

二次被害をなくそう

問 多方面との連携が必要な中で個人情報の管理をどのように行っていくのか。

答 個人情報保護法の規定に沿って適切に取り扱いを行う。

採決：全員賛成



次は補正予算・他の条例審議など

町の条例は、町のホームページで全文をご覧ください

紫波町

検索



補正予算審議

令和7年12月10日

ピックアップ

令和7年度一般会計補正予算

議案第64号

可決

歳入歳出それぞれ5271万円を追加し、総額177億6973万円とするもの。

採決：全員賛成

商工業振興費 企業立地奨励費 1957万円

問 複数年にわたって交付する補助だが、この金額の根拠は。

答 紫波町企業立地奨励条例に基づき、ニチコン岩手(株)において、工場増築と機械設備の新設、それに伴い11人の新採用、そのうち町民4人を雇用したことに

対して、増築した部分、新しく増えた部分の固定資産税相当額が奨励金ということになる。



応援するぞ!

町内立地企業への推奨金

ラ・フランス温泉 運営支援補助金 5300万円

問 補助金は一般財源。どのように充当する予定なのか。

答 令和6年度は運営補助金として5500万円を支出したが、7年度は前年度に比べて営業利益に若干の改善が見られるので、5300万円とした。業績は前年並みで推移しており、今回の補助金で期末には前年並みの500万円の黒字と予想している。経費節減と同時にイベント開催などで利益を確保していきたい。



学校給食費 給食材料代 600万円

問 今回の補助について、どの程度が妥当か議論したのか。

答 米価高騰の現状において、保護者の経済的負担を増やさないために、値上がり分を公費負担する。給食センターでは食材の選定、献立の工夫などの節減を図っているが、限界がある。今後も安定的に給食の質を確保するために、8年度の学校給食費の改定について現在検討を進めている。



経営が若干改善し
前年より補助減額

米価高騰に伴う
材料費補助

人事

人権擁護委員

稲垣 明美 さん
いながき あけみ さん

法務大臣が委嘱する人権擁護委員の候補者の推薦について、稲垣明美さん(長岡)を適任と決定しました。

人権擁護委員は法務局職員とともに、人権侵害事件の調査処理、人権相談、人権啓発活動などをを行います。

条例審議

ピックアップ

可決

紫波町議会の議員の議員報酬等に関する条例及び紫波町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 議案第69号

定例会

12月第2回会議 12月25日

全て原案通り可決

議員及び町長 などの期末手当 改正

問 町民生活の実態を反映して、独自に判断するべきでは。

答 国に準拠することにより、民間または近隣市町との均衡が図られるものと考えている。

反対

村上 みさと 議員
現在、議会の倫理に対する疑念が生じている状況にあり、町民の理解と信頼を得られない。

及川 ひとみ 議員
町民の負担を増やしておいて、手当を引き上げることは、町民から理解が得られない。

討論

賛成

佐々木 純子 議員
国の方針のもと手取りを上げることに準じたものであり、経済循環の観点からも賛成。

反対5 採決 賛成12



条例審議

令和7年12月10日可決／令和8年4月1日施行

紫波町個人番号の利用に関する条例の一部を改正する条例 議案第60号



地方公共団体情報システムの標準化に伴い、個人番号の利用範囲及び特定個人情報の提供をすることができる場合の要件を改めるために条例の一部を改正するもの。

問 情報漏えいの懸念があるが。

答 今回は全てシステム上で行うもので特定の職員がどのような処理をしたか全て情報として残り、より厳格に管理される。

問 システム標準化のメリットは。

答 申請手続きの簡素化、添付書類の削減など、事務の連携が行われることで申請期間、事務の処理時間が短縮されるなどのメリットがある。

反対

細川 恵一 議員

任意であるはずの個人番号カードを事実上強制するもので、情報漏えいや個人情報保護の観点からも、多くの情報をひもづけるやり方は受け入れられていない。

討論

反対4 **採決** 賛成13

村上市 高橋 及川 細川 根水 吉田 鈴木 佐藤 橋本 高橋 浅沼 北條 阿部 佐々木 阿部 熊谷 細川 藤原

使用料および手数料の適正化を図るための関係条例の整備に関する条例 議案第61号



使用料及び手数料の適正化を図るため、公共施設の使用料及び特定の者のためにする事務にかかる手数料の額を改訂するもの。

使用料・手数料の値上げ

問 値上げをする理由と根拠は。

答 物価高騰、人件費の上昇が続く中、現状との乖離が進み、地方税の負担が増している。掛かる経費を個別に精査の上、全町で見直した。

反対

及川 ひとみ 議員

生涯教育、スポーツを推進し生き生きと生活する人たちを増やそうとするならば、この議案は暮らし心地の良いまちには合わない。手数料改定も生活を厳しくするだけ。

賛成

鈴木 博 議員

この値上げをしなければ、施設を使わない町民の税金を施設の使用料などに充てることになり、負担の公平性の観点からも不公平が生じることになるため、賛成。

反対4 **採決** 賛成13

村上市 及川 細川 根水 吉田 鈴木 佐藤 橋本 高橋 浅沼 北條 阿部 佐々木 阿部 熊谷 細川 藤原

審査請求

政治倫理審査特別委員会の審査結果を可決

審査請求事案について、対象条項である政治倫理条例第4条第2号「その職務に関し不正の疑惑をもたれるおそれのある行為をしないこと」に抵触するか審査した結果、政治倫理基準に違反すると認定し、本会議で可決。対象議員には、議長から口頭で注意しました。

今後、議員一人一人の倫理観向上を図るため、議会全体として、倫理条例への理解をより一層深めるための取り組みを通じて、町民の信頼に応えるよう努力してまいります。

補正予算審議

ピックアップ



令和7年度一般会計補正予算 議案第72号

歳入歳出それぞれ5439万円を追加し総額178億2411万円とするもの。

問 これからも給料は上がっていくと見込まれる。職員定数の見直しやDXによる効率化などの見直しは。

答 人事院勧告の通り、職員の給与として必要なもの。DXを推進し、業務効率化を図りながら事業を適正に行っていく。

職員などの
期末手当改正

反対

及川 ひとみ 議員

議案第69号の条例改正で反対したとおり、議員の期末手当の予算が入っているために反対。

討論

賛成

北條 聡 議員

職員の仕事に対するモチベーションを保つ上でも必要であり、町民の理解も得られている。

反対4 **採決** 賛成13

村上市 高橋 及川 細川 根水 吉田 鈴木 佐藤 橋本 高橋 浅沼 北條 阿部 佐々木 阿部 熊谷 細川 藤原



11議員が 一般質問



- 公民連携の透明性
- ガバナンスの確保
- ツキノワグマ対策



- 地域防災と地域づくり
- 農業振興



- 自殺対策
- 緊急銃猟



- フマ被害対策
- 分娩支援



- 農業振興
- 財政運営



- 稼げる農業の推進
- 自殺防止対策



- 人口減少対策
- 農業政策



- ICT教育
- 公民連携



- 所信表明の到達状況
- いのちを支える自殺対策計画



- 温泉保養公園再整備構想
- 子どもの遊び場確保



- 農業政策
- ツキノワグマ対策

音声版はページ下のQRコードから

一般質問とは…議員の視点から町の行政全般に対し質問し、政策的な議論をする場です。
12月会議の傍聴者は延べ31人でした。お越しいただきありがとうございます。

稼げる農業の推進

担い手育成と経営力の強化は

日々の工夫が
成果をもたらします



たかはしけいこ 議員
高橋敬子



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

答 個別に支援を推進する

問 農業経営者の年齢構成、経営形態の現状と農業における経営の重要性は。

町長 農業環境は高齢化が深刻であり、将来の担い手の確保と育成が課題である。

経営形態は、水田作経営では法人や集落営農組織への移行が進む一方で園芸作物や畜産の繁殖部門は、家族経営体が主流である。

水田作経営の担い手への農地利用集積を促進するとともに、園芸・畜産分野の家族経営体に対し、新たな技術導入や経営力強化の支援を個別に推進する。

経営の重要性として、

経営戦略の立案、市場開拓などといった経営能力と、「稼げる農業」を実現するためには、スマート農業の導入や収益計画に基づく作付けなどが求められる。

問 JAを経由する農作物の出荷割合と、なぜJAを使うのかについてどのように捉えているか。

町長 出荷割合は品目などで異なるが、JAは重要な流通ルートの一つであり、地域農業を支えるパートナーである。既存の販売体制を生かしつつ、個々の販売戦略を尊重し担い手を多角的に支援していく。



就農相談の様子

このほかの質問

自殺防止対策



次世代を担う子供たちへ
笑顔の紫波を!



あさぬまありとも
浅沼有朋 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

財政運営

財政健全性確保の見通しは

答 基金残高と町債残を注視する

問 現在、国・県補助事業のほか、単独事業もさまざま取り組んでい

る。人件費、扶助費の増加が続く見込みの中で、普通建設事業は継続的にやっていくが、基金の確保と町債残高などの将来負担を注視していく。

町長 令和6年度決算は、扶助費が増大する中にも赤石小学校整備などに取り組んできたが、財政調整基金残高は15億円余りを確保し、町債残高については5年度から5億円以上減らしている。

問 町財政の中期的な見通しと、財政の健全性確保をどのように捉えているのか。

町長 令和6年度決算は、扶助費が増大する中にも赤石小学校整備などに取り組んできたが、財政調整基金残高は15億円余りを確保し、町債残高については5年度から5億円以上減らしている。

町長 予算編成において、歳入に限りがあり、身の丈に見合った歳出で運営せざるを得ない状況である。

町民からの意見や新たな要望は、現在の事業で対応できるものはないかなど、常に評価し改善につなげる必要があり、事業の見直しにより効率的な事業構築を図ることで財源確保に努める。

このほかの質問

農業振興／紫波町総合計画



町の事業、続ける? 変える?
廃上 継続 縮小
事業と財政のバランスを!

大切ないのち
元気な産声を



ふじわらけいこ
藤原恵子 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

分娩支援

町の妊産婦の支援体制は

答 妊婦サポート119などの事例研究をする



妊婦対象の栄養教室の様子
妊娠から出産、子育てに安心を

問 少子化の加速に伴い、国内の分娩施設が減少しており、町を含め1041自治体に分娩施設が無い状況になっている。そこで、事前登録した妊婦を出産時にかかりつけ医に救急搬送する「妊婦サポート119」や、交通・宿泊助成を実施している自治体もあるが町の施策は。

町長 県内の分娩できる医療機関は平成23年に39施設あったが、令和7年には20施設になった。そのうち13施設は盛岡から北上にかけての県中部に集中しているため、町には分娩できる医療機関はないが、交通アクセスの良さから安心な環境にあると考えている。

「妊婦サポート119」や交通費・宿泊費の助成など、実施している自治体の事例を調査し、実施について研究していく。



マタニティマーク

このほかの質問

クマ被害対策／ケアマネージャーの無償労働問題



緊急銃猟

実効性のあるものを

答 関係各所と連携し認識を共有する

自然への畏敬を忘れず、
あらがっていく



よしだ かずき
吉田和希 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

問 全国的にクマやイノシシなど野生鳥獣の被害が増加する中、緊急銃猟が運用される事となった。あくまで緊急時のための制度だが、実施に備える必要がある。町はどのように捉え、進めていくか。

町長 緊急銃猟は、地域の安全という公共の利益のために、民間ハンターの高度な技術に頼る、極めて困難で責任の重い任務と考えている。安全を確保して行うものだが、危険性や法的責任が生じる可能性もあるため、猟友会とも認識を共有し協議していく。諸条件を総合的に判断した上で、地域住民の安全を守るため

自殺対策

このほかの質問



クマ対策が急務です！

自殺対策

問 実施の準備をしている。クマの出没地点を踏まえ、自治体ごとに現実的な実効性のあるものにする必要がある。具体的な運用方法と進捗は。

町長 現在は対応マニュアルの素案が完成し、実施の主軸となる猟友会や関係各所との調整と協力体制の確保をしている。今後は、猟友会など関係機関や矢巾町との協力体制が整いつつ、机上訓練や実地訓練を行う。

地域防災と地域づくり

声を掛け合う関係づくりは

困ったときは、お互い様の
気持ち大切です



ささき じゅんこ
佐々木純子 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

答 重要性を周知していく

問 令和7年10月に赤石地区で行われた地域防災訓練の振り返りと課題は。

町長 避難所開設時の役割分担や室内テントの設営など、基本的な作業はおおむね円滑だったが、住民の受付方法や、住民へ避難指示の伝え方など、改善が必要であると確認された。

問 人口増加地域の地域防災に対する意識づけと災害時の被災の確認の取り組みは。

町長 町公式LINEなどを活用した防災情報提供や、自主防災組織と連携した防災訓練の参加案内など情報共有体制の強化にも努めている。

問 地域の中で、普段から声を掛け合う関係をつくるのが、有事に備え、普段の生活に生きがいや楽しみを感じ、さらに地域づくりにつながるのでは。

町長 普段から関係づくりが、地域づくりに重要であり、災害など有事の際に「共助」という大きな力を発揮する。安心安全な地域にするために、日頃から地域の中で顔の見える関係を築く重要性について周知していく。

このほかの質問



緊急通報！ 普段の訓練でスムーズに

農業振興



未来へつながる
取り組みを



すずき ひろし
鈴木 博 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

公民連携事業 事業全体の透明性は

答 適切な情報公開に努めている

問 町はオガール・ノウル関連会社に出資しているため、地方自治法や町情報開示条例を基に、町民や議会に対し、もっと分かりやすく情報提供する必要があると思われるが、事業全体の透明性をどのように担保しているのか。

町長 町出資法人の情報には、地方自治法に基づき毎年度議会に対して経営説明書類を提出している。

事業全体の情報について、オガールプロジェクトは事業の経過を、ノウハウプロジェクトは事業者選定から工事進捗などを町のホームページで公開している。

このほかの質問
ツキノワグマ対策



公民連携事業を、
分かりやすく次世代へ

問 オガール・ノウル両事業の収益構造、リスク分担など、町として体系的な情報開示とそれを評価・管理する仕組みは。

町長 町出資法人の収益状況は、決算資料などで把握に努めているが、各施設に入居している民間事業者の収益状況は、町では把握していない。

事業の評価は、監査委員による定期監査、議会による決算審査などで評価を受けている。

町民が必要とする情報は、今後も適切な公開に努める。

農業政策 余裕を持ったコメの生産を

答 支援策など情報周知と経営支援に努める

町民、農家の実情を
よくつかんでもらいたいですね



ほそかわけいichi
細川 恵一 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

問 国はコメ不足と価格高騰対策として増産の方針を決めた後、3カ月足らずで減産へ転じる急な方針転換をした。

町内農家からは、コメの増産から減産に転じた急な方針転換に対して一貫性を欠く農政だと疑問の声が上がっている。

コメ不足と価格高騰を起ささないためには、農林水産予算の抜本的な増額、価格保障や農家が安心して増産できるための所得補償が必要と考えるが町の対応は。

町長 国の急な方針転換は生産現場の混乱を招き、営農計画の見通しが立たないなど、農政の不信感につながると認識している。

このほかの質問
ツキノワグマ対策



ちょうどいい量って難しい

コメ不足や価格高騰を防ぐには、適切な在庫量を確保する余裕を持った生産が必要であり、農林水産予算の抜本的な増額や価格保障、所得補償の充実なども必要と捉える。

町としては、今回の混乱については、国に対して中長期的な農業政策の確立を求めるとともに、農業者への支援策など情報周知と経営支援に努める。



屋内の遊び場

子どもの遊び場確保を早急に

クマだけの
せいじゃないの!



むらかみ
村上みさと 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

答 遊び場確保に向けて協議を進める

問 クマの出没が頻発し、子どもたちが安心して外遊びができない状況が続いている。クマ大量出没に対応し、屋内で遊べる公共施設を開放している自治体もある。

子育て世代のニーズを把握し、安全な遊び場の確保に早急に取り組むべきでは。

町長 近年、ツキノワグマの出没が相次いでいる。子どもたちが安心して屋外で遊ぶことが難しくなっている現状を憂慮しており、子育て世代の不安が大きくなっていると認識している。



もともと遊び場が少ないの!

公共施設を開放し、屋内で遊べる環境を確保している他自治体の取り組みは参考となる有効な事例であると考えている。町内の公共施設活用の検討も含め、町でも子どもたちが安全に遊べる環境の確保に向け、関係部署と協議を進める。また、クマ出没の情報提供や注意喚起を継続し、子どもたちの安全確保に努める。

このほかの質問

温泉保養公園再整備構想／公正な職務の執行と公民連携事業の透明性確保

熊谷町政

所信を振り返っての評価は

どれだけ成果を出したか



ねみずやすひろ
根水康博 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

答 一定の成果を得られたと考える

問 町長は令和2年度から所信で貫いたテーマを掲げていた。それらをどう評価しているか。

町長 所信と第三次総合計画を振り返ると、コロナ禍に県で最も早い集団接種、子ども医療費助成を高校生まで拡大、子ども家庭センターの設置など住民の健康と安全を守ってきた。

自然・産業の分野では、酒産業や東根山の地域活性化、星山地区の圃場整備、脱炭素先行地域の認定取得、中小企業振興条例の制定などに取り組んだ。

安全・快適の分野では、しわまる号運行、古館駅前広場の整備や紫波中央

駅エレベーター設置など住環境の維持に努めた。子ども・教育・文化の分野では、学校再編、スポーツ交流施設などに取り組んだ。その他、地域づくり支援、パートナーシップ・ファミリー制度の整備、町公式LINEや書かない窓口の導入、小学校跡地活用など、関係各位の協力を得ながら取り組み、一定の成果を得られたと考える。

問 新町長に引き継いでほしいと思うことは。

町長 暮らし心地の良さを循環・協働・多様性を理念に取り組んできた。新町長には、この理念を基本に、町民の暮らしを守ることを第一に、現在進行中の主要事業を前へ進めてほしい。

このほかの質問

いのちを支える自殺対策計画



子どもたちの様子を
気にしてほしい



おいかわ
及川ひとみ 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

ICT教育 活用の課題に目を向けて

【答】効果や課題の検証を行ってきた

問 デジタル先進国では、アナログへ回帰する動きがある。文科省では、2030年度にデジタル教科書の導入を予定しているが、デジタル教科書導入の考えは。

教育長 町では、令和4年度より、小学校5年生から中学生まで英語のデジタル教科書を導入している。

5年度から、町内の半数の児童生徒を対象に「算数・数学」の教科書を試行導入している。

各学校では、紙の教科書の利点と、デジタルの視覚・聴覚を活用した理解促進の利点を踏まえ、授業の目的や場面に応じて適切に使い分けている。

このほかの質問

公民連携



ポチポチ...タブレットの宿題中

と認識している。今後、国の議論を注視していく。

問 タブレットはどのよう
な利用が有効か、
思わしくない点は何か。

教育長 多様な機能で、理解
や学習意欲の向上に
役立つ。また、配慮の必
要な児童生徒の学びを支
える有効な手段にもなっ
ている。

一方で使用方法によっ
ては、集中力の低下や視
力への影響、生活習慣の
乱れなど課題も指摘され
ている。

町主催婚活イベントに
期待します



ほそかわ
細川 久 議員



議員の一般質問
・答弁の動画は
QRコードから

人口減少対策 長期的な視点での取組みは

【答】若者に選ばれるまちづくりを進める

問 人口減少は、経済社
会、社会保障、地域
社会などさまざまな側面
に深刻な影響を与える喫
緊の課題である。対策の
効果が出るまでには時間
がかかるため、長期的な
視点として若者の流失を
防ぐ対策や、移住定住の
促進策はどのように取り
組んでいるか。

町長 若者が町外へ流失す
る背景に、やりがい
を感じられる仕事が少ない、
ジェンダーギャップ
をはじめとした若者の挑
戦や多様な価値観の受容
性不足という課題があ
る。若者が選択した挑戦
を地域全体で応援するこ
とにも、「若者が戻りたい
と思える町」にしてい

このほかの質問

農業政策／町長在任中
における成果と課題



イベントを開催しました！

くことが大事と考えられ
る。

また、地域おこし協力
隊など、希望を持って町
外から移住し、地域の協
力を得て活躍する若者が
増えている。意欲ある若
者に選ばれるまちづくり
を目指していく。

問 若者に出会い支援は
ないか。

町長 出会う機会をつくる
ことにより、出会い
から結婚に結びつくこと
が期待できるため、7年
度は町主催の婚活イベン
トを開催する。



シリーズ「議会の見える化」vol.6

議員派遣ってなあに？



地方議会の議員派遣とは、調査など議会で必要と認められた場合に、議員を研修などに送り出すものです。派遣後には議会への報告を行います。



議会だよりNo.213

広報広聴常任委員会では、令和7年11月7日に行われた「町村議会広報担当者研修会」に委員3人が派遣され、議会広報サポーターの芳野政明^{よしの まさあき}氏の議会広報クリニックを受講しました。



吉田和希委員

予算概要はデータや記事を詰め込み過ぎているという想定通りの評価でしたが、初めて「再議」を記事にしたことから議会だよりしわNo.213を選びました。再議の流れの図解や議会の視点が示され適切という評価でした。

表紙の写真を横デザインにしているのは紫波町だけでしたが、写真を広く配置し視覚的なインパクトを高める効果を評価していただきました。



村上みさと委員



佐藤光夫委員

西和賀町議会が「議会だよりしわNo.212を参考にして中学生議会の記事を作った。」と聞きました。今後も他自治体議会と相互に高め合っていきたいです。

議会の活動を紹介します

10月		11月		12月	
議会運営委員会	2回	議会運営委員会	1回	議会運営委員会	3回
議会全員協議会	1回	議会全員協議会	2回	議会全員協議会	2回
町づくり常任委員会	3回	予算決算常任委員会	1回	議会本会議	6回
広報広聴常任委員会	3回	広報広聴常任委員会	1回	町づくり常任委員会	2回
人口減少調査特別委員会	1回	人口減少調査特別委員会	1回	予算決算常任委員会	1回
政務調査会	2回	公民連携調査特別委員会	1回	条例審査特別委員会	1回
議員研修	1回	政務調査会	1回	人口減少調査特別委員会	1回
		議員研修	1回	政治倫理審査特別委員会	2回
				広報広聴常任委員会	2回





議員が依頼に伺った際は
ご協力をお願いします。

聞かせて まちの声

町内の方々に寄稿していただきました

私の願い



さが こうたろう
佐賀 耕太郎さん
(古館地区)

古館に移り住んで38年になります。遠くに岩手山を望み、近くに北上川が流れ、城山、水田、野菜畑、果樹園があつて、四季折々の景観、風、音色を楽しみ、幸せを感じながら散策しています。

紫波町はお米や果物をはじめ農産物の種類も豊富ですし、歴史ある酒造りなどの文化も誇りで、田園から里山まで、豊かな自然に恵まれていると感じています。

一方で、気象災害や病虫被害も避けられない自然の一面で、農地や山林が荒れることも心配です。

農林業が今後とも元気であるよう、高齢化対策も含めて、広く英知を集めてほしいと願っています。



むかいほたち
向畑地でオジロワシを撮影

しなごでつく農業へ



たけはら かずこ
竹原 和子さん
(水分地区)

家業の農業を手伝い始めて15年になります。

このところ多くお聞きするのは、農産物の販売側の高齢化と後継者不足のお話です。

将来の農業者不足につながると思ひ、危機感を感じています。

近年はネット販売など、購買方法はさらに多様化しているように感じます。

紫波の農業者が、今後多様な販売先にも対応できる仕組み作りを期待します。

また、紫波の豊かな農産物を守るため新規就農者や若い農業者への技術継承や経営力強化につながる取り組みや支援を希望します。



さまざまな販売方法に取り組みたいです

受け継ぐ笛の調べ



あべ きゆうち
阿部 久知さん
(長岡地区)

「お祭り男」と呼ばれていました。

犬吠森の念仏剣舞で私が笛を吹くようになったのは、父の影響があつたのだと思います。笛は楽譜も録音もなく、全て口伝でした。

遠山の田植踊りにも関わって新しい人に笛を教えるなど、振り返ってみれば私自身が伝承の中間をしていたのだと実感します。

私はもう引退をしていますが、孫にも笛が自然と引き継がれました。

紫波町には郷土芸能が沢山あります。若い人たちが受け継いだ先に、時代を経ても変わらぬ良いものが残れば良いと思います。



過ぎし日の念仏剣舞



年頭のご挨拶



紫波町議会
議長 武田 平八

新年あけましておめでとうございます。
皆様には、輝かしい年の幕開けをお健やかに迎えの事とお慶び申し上げます。

平素、皆様には、議会に對しまして特段のご理解とご協力を頂いております事に心より感謝を申し上げます。
さて、町は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき「暮らし心地の良いまち」を地域ビジョンに掲げて政策・事業を展開しておりますが、社会経済の激しい変化などに加え、「クマ被害」が多発し、日常生活を取り巻く環境は予断を許さない状況にあります。

町民の暮らし心地の良さを実現し、紫波町が持続的に発展して行くためにも、現状を徹底的に分析し、中長期的な視点で丁々発止の議論をしていく事が大切であり、山積する課題一つ一つの解決に向けて、なお一層気概を強くしていきたいと考えています。

今年の干支は、「丙午ひのえうま」であり、干支に相応しく、将来に夢と希望を持てる町づくりに向けて「情熱と行動力」を持って、後顧に憂いを残さないように議会が「ワンチーム」となり、与えられた役割と責任を果たすべく邁進して参りますので、引き続き、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、皆様に取りまして、本年が最良の年になります事を祈念しご挨拶といたします。

表紙の写真

挑戦・飛躍の年へ!!



親子で午年です!



今年の抱負を書いています!

表紙の写真は、町内の12歳から96歳の午年の皆さんです。午年の方に協力してもらった過程で、広報委員と町民の皆さんの交流や楽しいエピソードもあり、一緒に表紙を作ることができました。

今年60年ぶりの「丙午ひのえうま」です。江戸時代からの迷信により、60年前の昭和41年は前年比25%出生数が減少しましたが、現代では科学的根拠はないと言われています。

午年は情熱的で、新しい産業や技術の進化が加速し、大きな飛躍や挑戦に良い時期と言われています。午年。パワーで新年の挑戦が結実し、飛躍の年になることを祈念いたします。

ペンをおいて

議会だよりの編集に関わり2年半が経ちました。「議会だよりに見たよ」と子育て世代や子どもたちから声をかけられ、多様な世代に関心を寄せていただいていることに感謝の気持ちでいっぱいです。

表紙の写真の取材では、たくさんの人に出会いました。いつも快くお受けしてくださり、町民の皆さまの人の良さを感じます。これからも読んでもらえる紙面作りに励んでいきます。

村上みさと

発行・編集責任者

議長 武田 平八

広報広聴常任委員会

委員長 鈴木 博

副委員長 佐々木純子

委員 吉田 和希

委員 村上みさと

委員 佐藤 光夫

委員 橋浦 栄一

委員 及川ひとみ



及川ひとみ

議会からのお願い 議会だよりの取材のため、議員が写真撮影に伺うことがあります。ご理解とご協力をよろしく願いいたします。



植物油インキを使用しています



議会だよりの



No.216 令和8年1月28日発行